

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ひみつの言葉を引き出そう」 教材名「ひみつの言葉を引き出そう」

2 単元の目標

言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（〔知識及び技能〕(1)ア）
話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。（A(1)エ）
相手の返答から関連する質問を考え、必要な言葉を聞き出す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）	①「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。（A(1)エ）	①相手の返答から関連する質問を考え、必要な言葉を聞き出す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

相手の返答から関連する質問を考え、必要な言葉を聞き出す。この教材では、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

教師の独自の短い体験話を聞き、聞けたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。想定する難しさは、一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。評価では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかを、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。教師が設定した身近な話題で、聞き手が返答に関わる質問をする。目的に近付いた質問と話題が外れた質問を振り返り、聞き方の違いを説明する。聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。(A(1)エ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。 ○「相手の答えから、次にどんな質問を考えますか」 【めあて】相手の返答から関連する質問を考え、必要な言葉を聞き出す。 〈予想される児童の反応〉 ・何をしたかは聞けたが場所を知りたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「相手の答えから、次にどんな質問を考えますか」 教師が設定した身近な話題で、聞き手が返答に関わる質問をする。目的に近付いた質問と話題が外れた質問を振り返り、聞き方の違いを説明する。 聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・何をしたかは聞けたが場所を知りたい。 ・友達が答えたことをもう一度確かめたい。 ・聞くと初めより様子が分かった。	教師の独自の短い体験話を聞き、聞いたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。 想定する難しさ：一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。 評価では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかを、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・聞くと初めより様子が分かった。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「相手の答えから、次にどんな質問を考えますか」。中央は、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

